

## 論文の内容の要旨

氏名：神 山 八 弓

専攻分野の名称：博士（医学）

論文題名：10代における中枢性過眠症群と概日リズム睡眠・覚醒障害群の睡眠検査と背景要因の検討

（背景と目的）中枢性過眠症群（Hypersomnia: HS）のナルコレプシーと特発性過眠症、概日リズム睡眠・覚醒障害群（Circadian rhythm sleep-wake disorders: CRSWD）の睡眠・覚醒相後退障害は、10代に好発する代表的睡眠障害である。HS と CRSWD は、深刻な QOL 障害を引き起こすため、早期介入が望まれるが、好発年齢や初発症状が類似しているため、しばしば診断に難渋し、治療の開始までに長期を要することがある。そこで本研究では、両疾患群の鑑別に有用な睡眠検査指標および心理・社会的要因の探索を行った。（方法）2013年1月から2019年12月に日本大学医学部附属板橋病院睡眠センター精神神経科部門を受診した10代患者130例について、特性、背景要因、主訴、確定診断を後方視的に検討し、さらに、終夜ポリグラフ検査及び反復測定睡眠潜時検査について、疾患間（HS と CRSWD、ナルコレプシーと特発性過眠症）で比較を行った。ついで、HS と CRSWD の背景要因を比較し、両疾患群の鑑別に有用な指標について検討した。（結果）10代の全受診患者130例のうち、CRSWD（39例）とHS（57例）が全体の73.8%を占めた。初診時主訴では、日中の眠気が57.7%と最も多かった。HS と CRSWD の反復測定睡眠潜時検査の比較では、CRSWD と比較し HS で睡眠潜時が短縮しており、より強い眠気を認めた。HS と CRSWD の背景要因の比較では、HS と比較し CRSWD において、内向性の性格傾向、適応や精神的な問題が病前から多くみられた。（考察）10代患者の7割以上がHS と CRSWD であり、これらが一般の医療機関で診断、治療が困難な睡眠障害であることが確認された。さらに、HS と CRSWD の受診時年齢に差はなく、CRSWD においても約3割が日中の眠気を訴えており、両疾患群の臨床における類似性が本研究において示された。睡眠検査では、HS と CRSWD においてMSLTの結果に明確な違いが示され、MSLTが両群の鑑別に有用である可能性が示唆された。背景要因の比較では、CRSWD で病前から多くの心理・社会的要因を認めており、これが引きこもりなど、外界の明暗リズムと体内時計の非同調を促進する行動変容に関連していることが考えられた。さらにHS と CRSWD の背景要因の差は、両群の鑑別に有用な指標であると考えられた。（結語）HS と CRSWD の心理・社会的背景要因の相違点が、両群の鑑別に資する情報になり得ることが初めて示された。これらは、一般の医療機関で両者の鑑別がより早い段階で行われることに貢献しうる。専門医療機関においては、HS だけでなく CRSWD に対しても積極的に睡眠検査を実施することにより、鑑別診断の精度を向上できる可能性が示唆された。